

Winter Guarana

ウィンター ガラナ

JUSTICE & PEACE SPIRITS

山本夜羽

JOHANNE YAMAMOTO PRESENTS



Winter Guarana

JUSTICE & PEACE SPIRITS

ウ ィ ン タ ー ガ ラ ナ

山本夜羽

JOHANNE YAMAMOTO PRESENTS

Winter Guarana^{ウィンターガラナ}

第1話	^{しば} 凍れる街	3
第2話	^{ガラ} 雅楽とボク	19
第3話	伝えたい、伝わらない	35
第4話	秘め事	51
第5話	DISCORD RECORD	67
第6話	氷細工の夏	83
第7話	^{オリ} 冬の檻	99

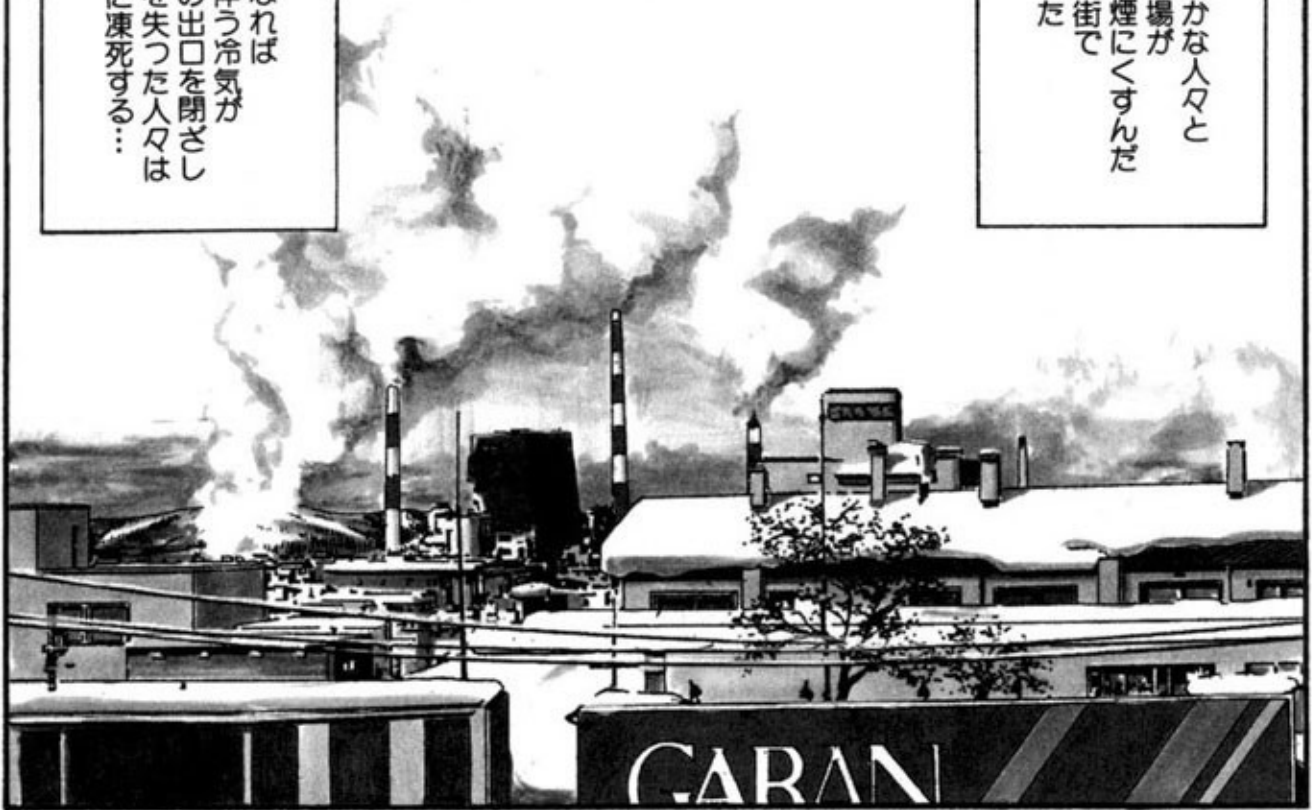
点子先生と安東。	115
点子先生の憂鬱。	131
点子先生の災難。	147

オマケ

Winter Guaranaは続きます	163
ボクにとっての「北海道・旭川」	164
ガラナこの怪しいドリンク	165
児童ポルノ禁止	166

善良で愚かな人々と
斜陽の工場が
吐き出す煙にくすんだ
何もない街で
僕は育った

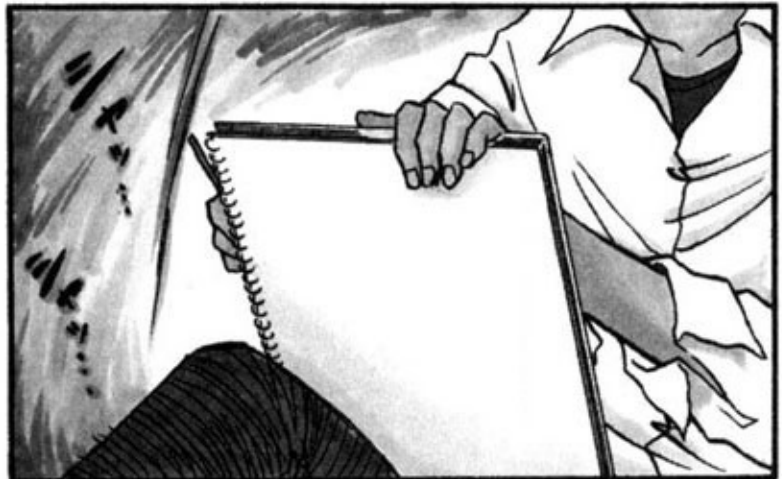
冬ともなれば
疼痛を伴う冷気が
街と心の出口を閉ざし
行き場を失った人々は
緩やかに凍死する…



けれど

そんな街で
僕は君と
出逢ってしまった

しば
第1話 凍れる街





僕のカノジヨは
美しかった

桂馬くん…？

どんな小道具で
恥態を装ったと
しても

僕の力では
紙一枚にその姿を
封じ込めることすら
叶わない……

あっ…

は…ん

やっぱり…
する…の？

憎いのか？

いや違うー
こんなにも…

あっあっあっ
やっ…やっ…

そん…な…ッ
しな…いで…ッ

やっ…あっあっ

あっ…

愛おしい…
だけどー
届かない…

ド

ド

はあ

閉ざされた街から
合法的に
脱出する方法を
考えた

その結論が
市内一と謳われた
この学校に
入ることだった



「東京の学校に
進みたい」とても
しおらしく言えば
反対する大人は
誰もいない

おーい
桂馬ーッ



何だ？

音楽室
借りられたから
放課後
練習な！

悪イ...

ヤボ用
あるんで...
今日は勘弁...

したっけ
学祭の曲目
決めねば
なんねーべや







無気味だな…
「ヘビ女」と
文芸部のダサ子どもの
群れ……

ありやあ
いくら何でも
近寄り難いべ



雅楽のことを
わざと
「ヘビ女」と形容
するのがはやつた

それほどに
凡庸な俺達とは
存在が
かけ離れていた



透明な柔肌
漆黒の黒髪と瞳
時代錯誤なまでの
その美貌——

雅楽はアイドルに
なる以前に
俺達の劣等感を
刺激して
腰を引かせた——













教えて…!

冬野さんの
気持ち…!

目の前に
拡がる――

どんな妄想も
凌駕する
まばゆい光……



体の芯が
熱く脈打つ音で
何も聞こえない

なのに
心の奥底では
不安だけが
覆っていた――

ガラ 第2話 雅楽とボク



ガラナ
南米の精力剤「ガラナ」の
成分を使用したと謳った
俺の住む地方では比較的
ポピュラーな炭酸飲料だ
ナンのことはない
コアラのパチモンの味がする

森山^{モリヤマ}雅楽^{ガク}の
名前を初めて聞いたとき
なぜか俺は
こいつの名前を
ダブらせていたのを
思い出した



北国にも
夏はある——
とても短くて
とても…暑い……



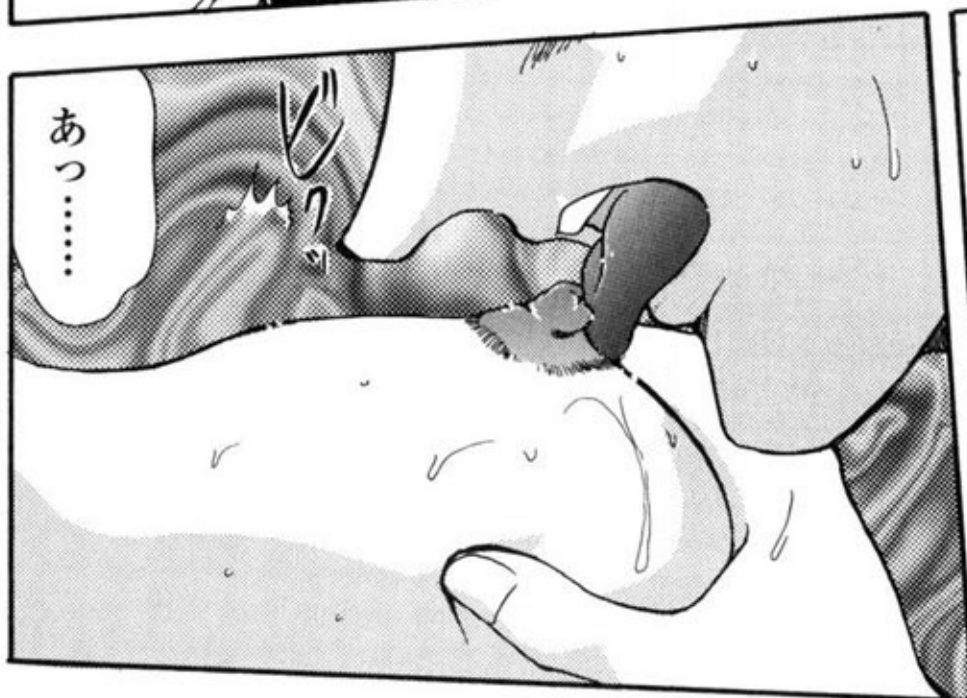




そしてまた、俺はあの感触を反芻する——











なんだ
これは……
なんだ!?

激しい昂りが
止まらない……
止まらない!!

小刻みに震え
激しくうねる
雅楽の肢体が
脳髓の一点を
突き刺して

あっ

あっ

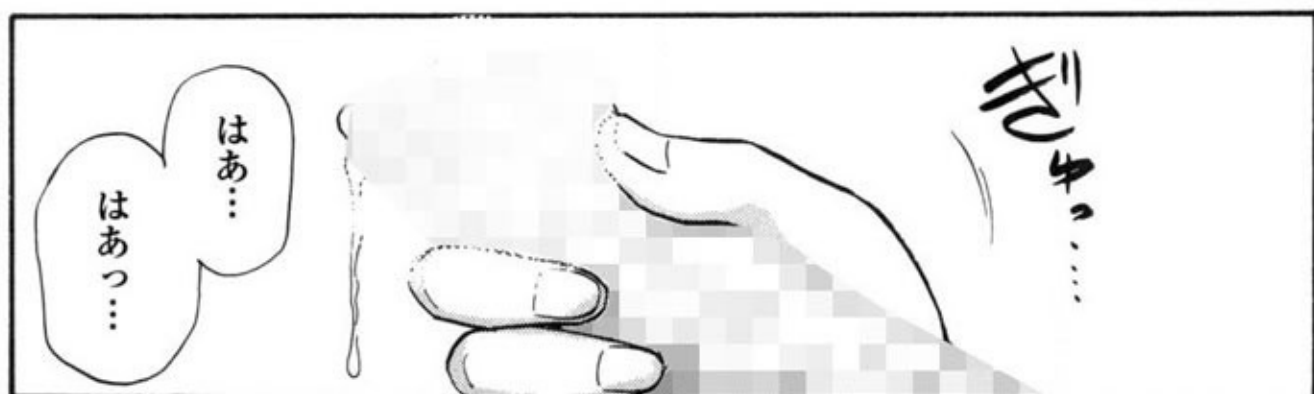
やつはっ……
あっあっっ

はんっ

はあっ

その先……
その先へ……
衝動の帰結点へと
誘っていく……







モリヤマガラハ
シヨジョジャナイ

またぞろ
俺の中の
劣等感が
首をもたげる



つけてくれよ

俺……
そーゆーこと……
知らねえから……



ごめんなさい

あの……
冬野さん？

やあ……



冬野さん……







股開いて
そこに寝ろよ！
ホラ！！

あんまり…
バカにすんなよ
俺を…



そのとき
気づいていれば
よかったんだ

俺が……
あまりにも
ガキだったって
ことに……



第3話 伝えたい、伝わらない





はっ…

あっ…

グッ
グッ
グッ



はじめて知る
感覚が
俺を包み込み

電氣的な
刺激となって
腰骨から背髄を
一瞬で貫いて……

はあっ

あっ……
冬野……さんっ

……いっ……



くっ…

吐き出される精

はっ…

笑えよ…

こんな…
早漏で…













んなわけ
ねーべや！
…好きだよ

…ただちよつと
訳わかんなくて…
あんなこと…
しちまつて…

ううん…

うれしかった…
本当はもつと
したかったの…

冬野さんに
触られるだけで…
クラクラして…
熱くなるの…

いま…こうして
話してるだけで
……どうにか
なりそうなの…

本当は…

この前
みたいなこと…
毎日…したい…





森山雅楽の
アソコは
比喩でもナンでもなく
ぐしょぐしょに濡れて
パンツが汚れていた

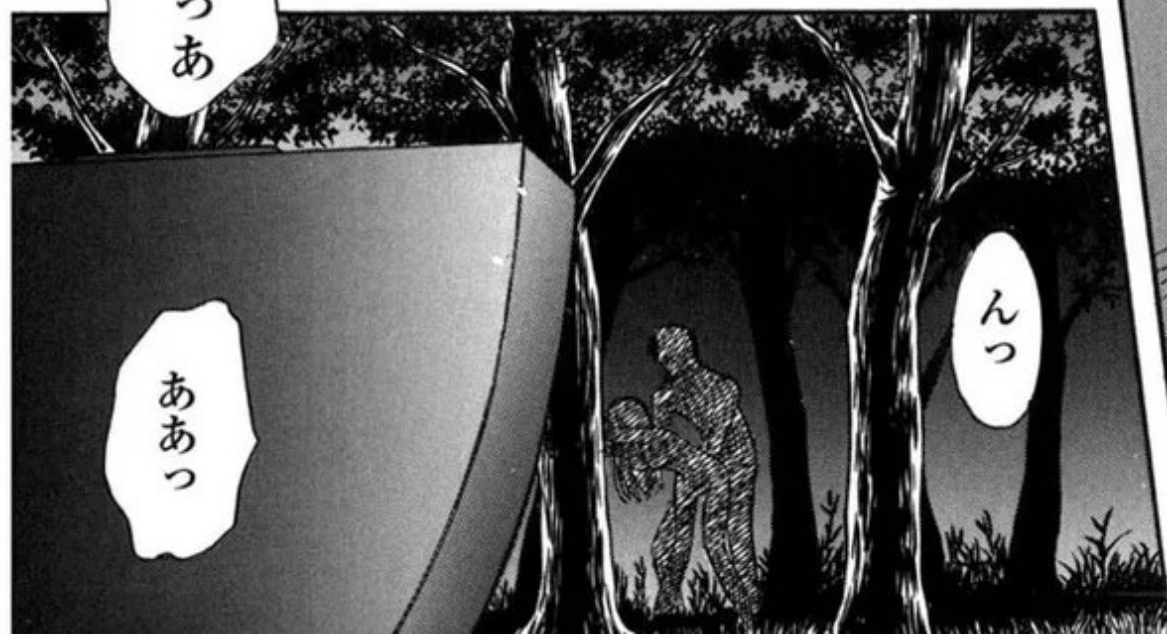
俺たちはこの先
どうなっていくのか……
満ちた月だけが
二人を視姦していた



第4話 秘め事







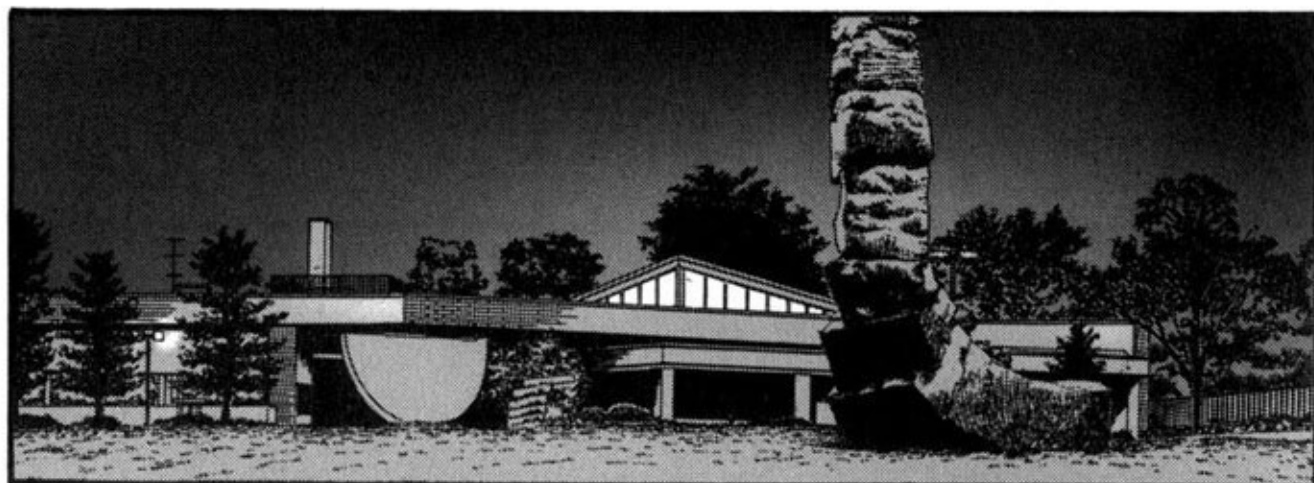




は…あつ

カン



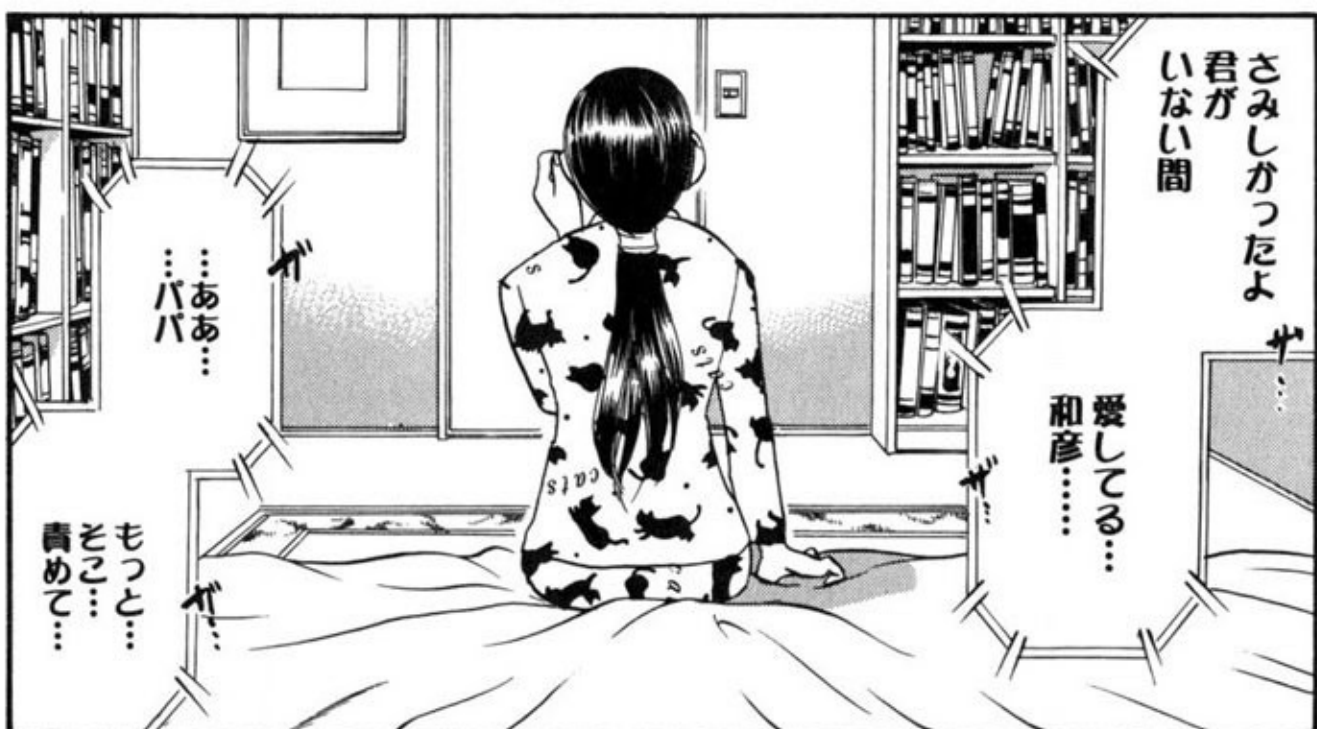












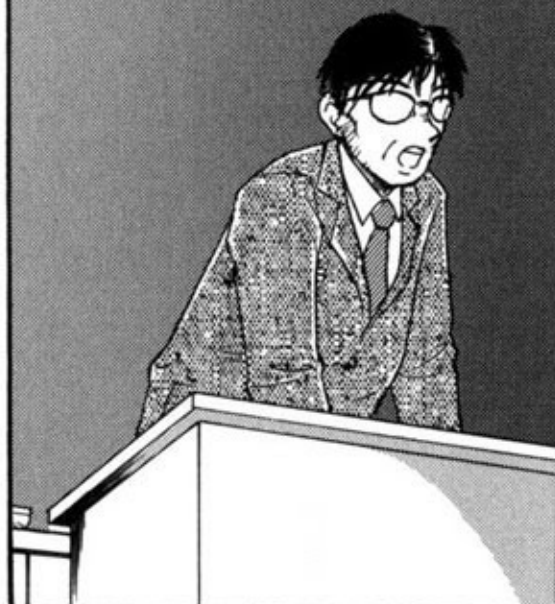


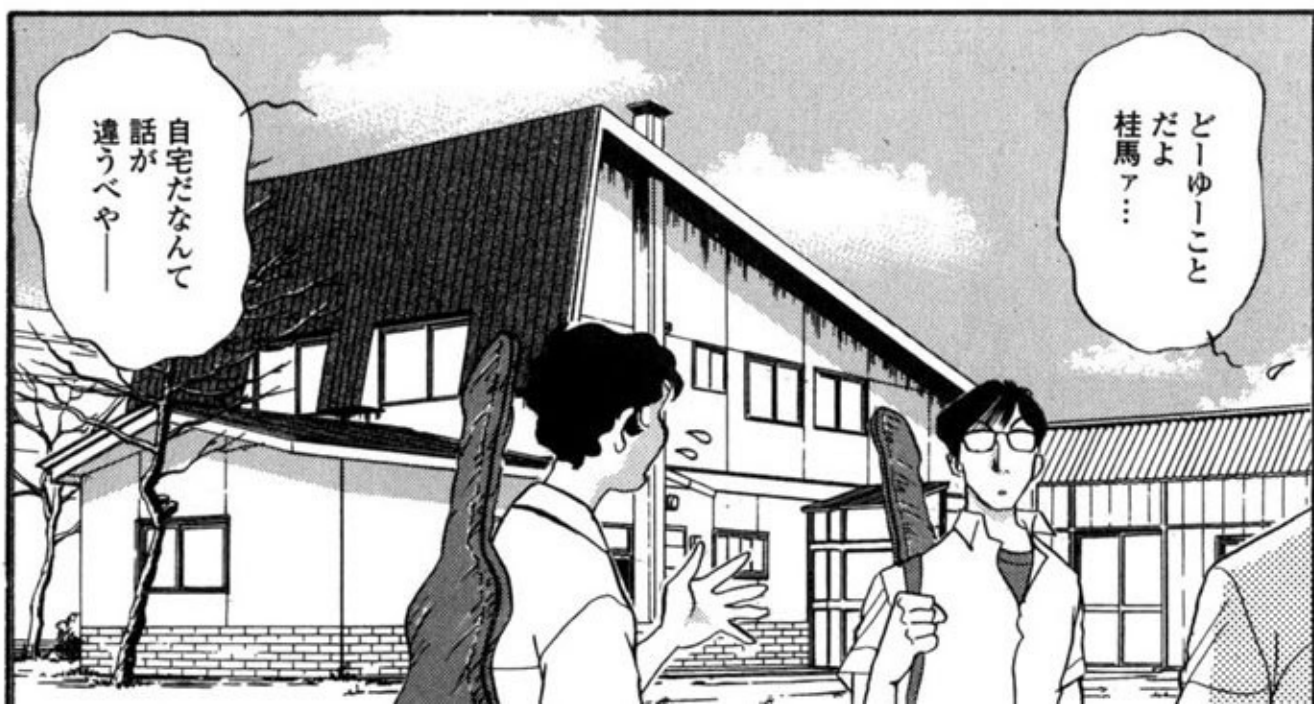
高2の夏は
最後の
モラトリウムだ

短い夏が
過ぎればすぐに
学校祭があり
——
他を出し抜きたい奴は
その後一切を捨てて
「戦争」に向かっていく



俺から何も
言うことあないが
この夏を
おろそかにして
再来年の春に
泣くのは自分だつて
ことを忘れんな！
——以上!!





家でないさ
こっちの
プレハブ

叔父さんが
住んでた部屋……
内地さ転動したんで
勉強部屋って言い抜けて
貸してもらったさ



いらっしやい

今ちょうど
掃除
終わったとこ



壁全面に
吸音材さ
張ったんだ

これなら
十分スタジオに
使えるべき

おお〜っ









はじめて聞く
森山雅楽の
歌声は

感動以前に
俺たちを
萎縮させた



ううん
お父さんが
洋楽好き
だったから

なんか
テキトーに
真似してた
くらいで

まいったな…
こりやバンド名
考え直すか?

「森山雅楽
ウイズXX」
とかにしなきゃ
釣り合わんべ

え…
あの…
そんな…

おろ
おろ

そーだべ
これだったら
グランプリだって
狙えるべや

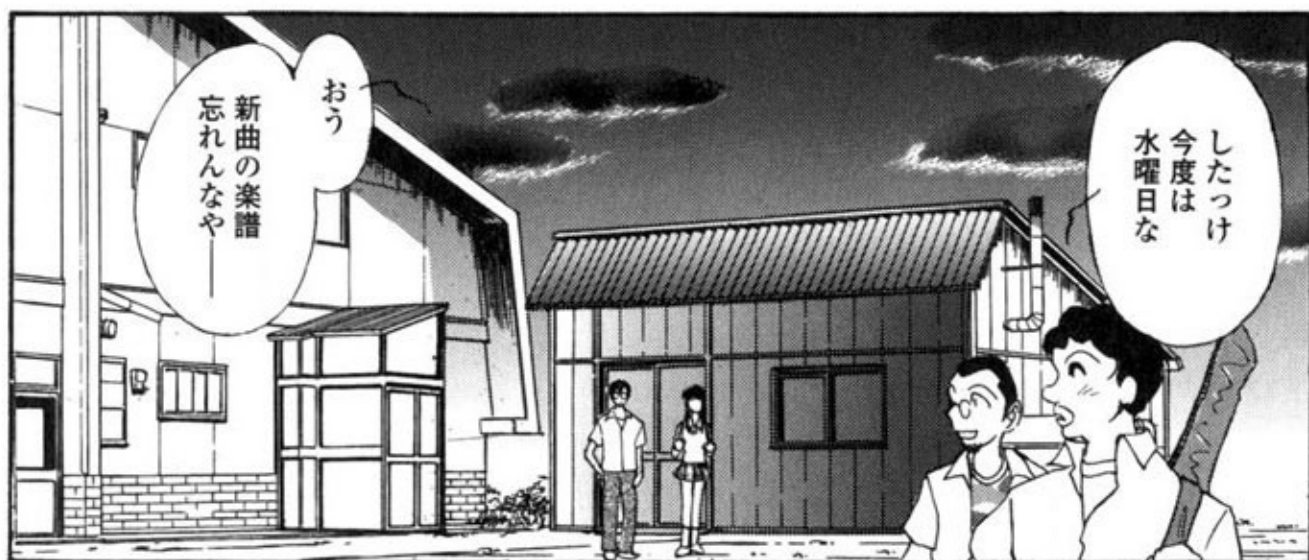
小バカにしてた
センパイ方さ
見返してやんべさ

そんな
誉めてんのよ
気にしないで

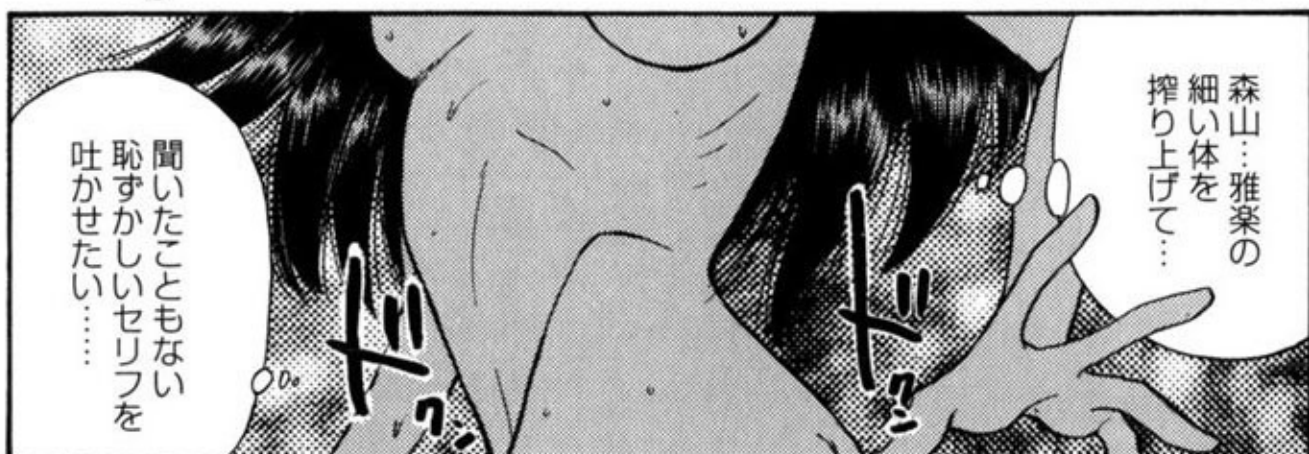
やろうぜ!
森山さん!!

そんな
熱血青春ノリで
ふっきれるほど
俺たちだって
バカじゃない

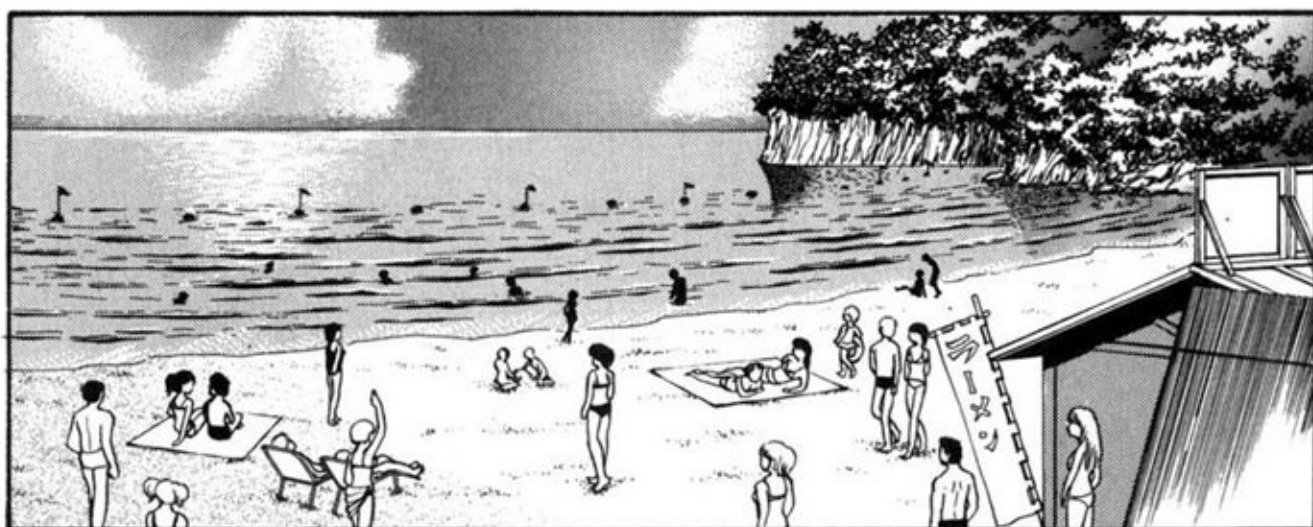
森山雅楽と
俺たちの
ステージの違いを
思い知るたび
コンプレックスという
感情の意味を知る











どうしたの？

あんまり
元気が
ない
みたい…

そのときなら
まだ引き返せたかも
しれない



夏の日差しが

僕らの
凍てついた世界を
一瞬にして溶かした
それは――

すみません

ちょっと
いいですかー？

SSSテレビの
「どさん子タイム」って
番組なんすけどオ

再び
氷の世界に
僕らを
閉じ込めるための



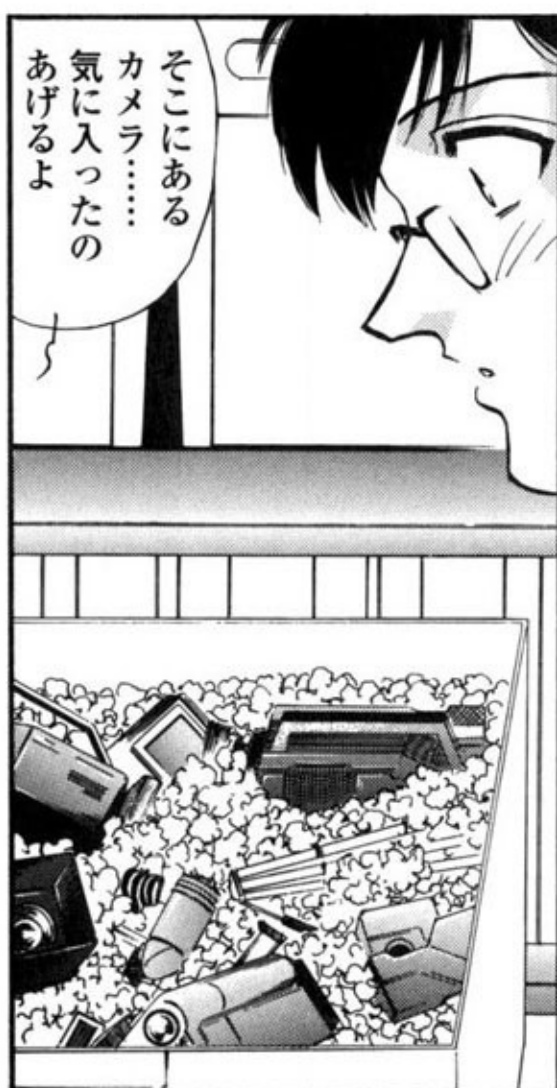


第6話 氷細工の夏







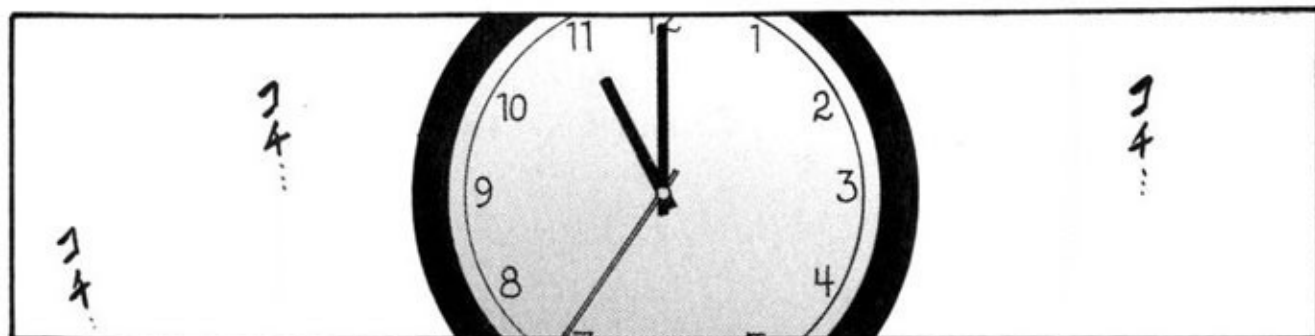






狭量な
俺の中の
コンプレックスを
止められない……











んっ...

やだっ...

冬野さん...
ここ...ダメ...ッ
お兄ちゃんの...

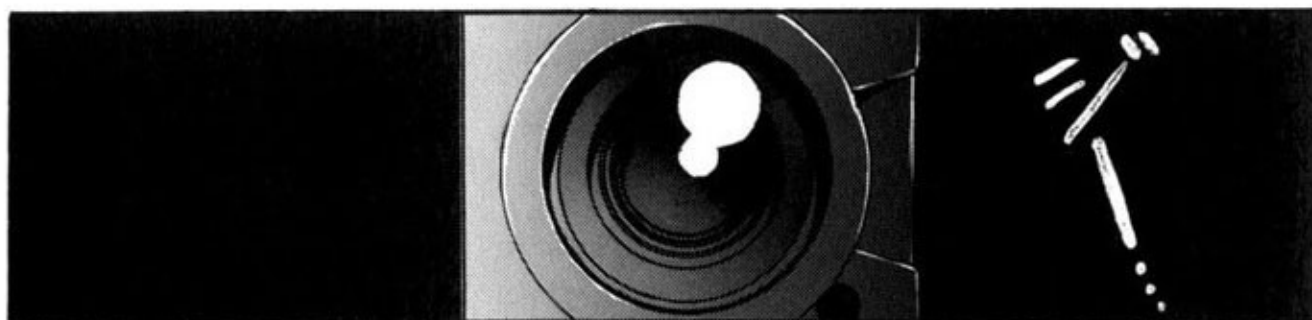
ハッ

したら
どこなら
いいんさ!?

ハッ

ハッ









第7話 冬の檻 オリ



冬の檻に
再びほくらは
閉じ込められる

けれど
今では

苦痛だった檻と
共犯している
自分に気づく…

森山雅楽を
このまま

氷像の中に
閉じ込めたい
衝動にかられる

いや
何でもない…

冬野さん？

東京の……
仕事のほうさ
どーよ？……

進級できる
くらいに
抑えてもらって

例のドラマ
デビューの話は
断っちゃった

忙しい
ときは

冬野さんの
こといつも
思い出してよ

無理する
ことねーよ

森山は……
俺ら凡人とは
違うのさ……

俺は結局
このハンカクセー
田舎町から
出られねーべ

一緒に
東京さ行こ！

一緒の大学
通って……
一緒に住むの……
…それが…

そったらこと
ゆわんで…

悲しくなる…
…ねえ



着替えは…
してきた？



あの日以来……ぼくらは檻の中に閉じ込められた……





冬野くん…
これ……

雅楽は……
こうしてあげるのが
好きなんだ



そんなこと……

……言えない……



使い方は
わかるだろ？



だめ……

撮っちゃイヤ
……やめて……
冬野さんっ



やめて……っ

そのまま

雅楽の表情を
覗いて
あげて……



雅楽……

冬野くんは
緊張してる
みたいだよ

森山雅楽の

今まで
見たこともない
貌かお

REC.





冬野さん…

あたし…
…もう…

はあ

はあ

はあ

イメージが
崩れた？
それも全て

君の責任だ…
それでも雅楽を
愛せるのなら

君を認めよう
でなければ

今すぐ僕らの
目の前から
消えてくれ…







僕と雅楽は
この世でたった2人の
兄妹だ...

僕は雅楽を
守るために
何だってやったさ
けれど.....

家族と肌を
合わせることは
できない…
ましてや

己の分身
なんだよ……
雅楽は……
そういう娘だ…

あつ

はあつ

君はいつか
僕らの秘密を
共有すること
になるだろう

その資格が
君にはある…
気づいてないかも
しれないけど…

冬野さんっ……
いいっ……いいのっ……
お腹の中っ……冬野さんのおチンチン……感じるのっ
何度も……来るっ……

もっと……撮って……
あたしの……いやらしい顔……いやらしい所……
刻みつけて……っ

そんなにいいのかった!?
ホモの兄貴に見られて
カメラ越しに覗かれて
スケベな汁を吐きだす
変態がっ……このっ……

だめっ……だめっ……あっあ
また……来る……冬野さんの
大きい……奥までっ……
こすれて……ねえっ……ねえっ……
イッて……イッてよ……あたしでっ

出すぞ…ッ
膣^な中でっ…
あんなに嫌がってたのに
このっ…このっ…

熱いっ…
熱いのっ…
わかる…はっ

あっあっあ
はーあっ

ドッ

ドッ

あの……
変な味の
炭酸飲料を



口いっぱい
ふくんだときの
あの感じ……





僕と雅楽の
物語はいつかまた
話そう

凍りついた
時間をゆっくり
溶かすように

点子先生と安東。







サイトウデンコ
斉藤点子
25歳

3年待つて
ようやくなれた
憧れの教職
だったのに……

図体ばっかり
デカイガキに
ナメられて……
心底我が身の
ハンディキャップを
呪うよ……

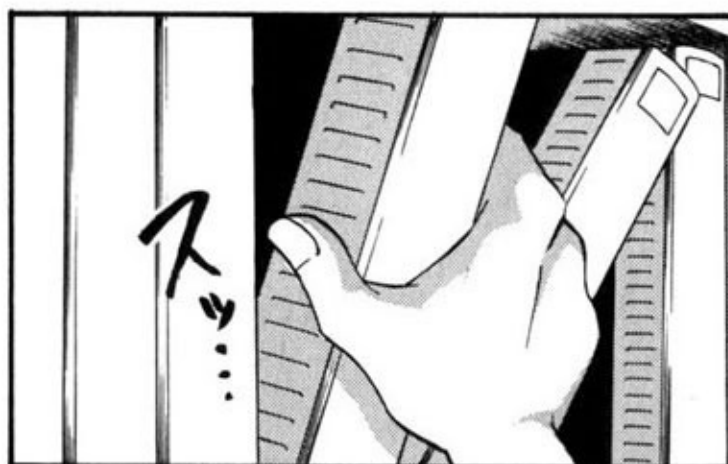
わっ……

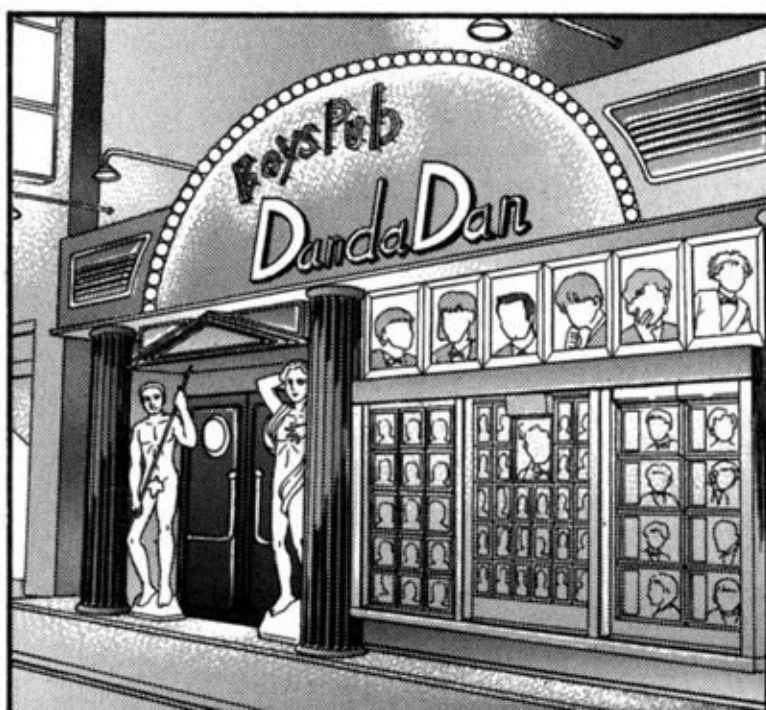
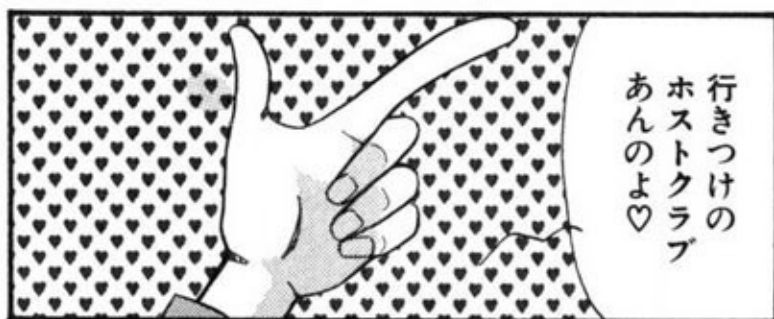
ガッ

いったあゝい

何やってんだよ
チビのくせに……

ド
ザンザン
ガラガラ







教え子が……
ホストだなんて
……未成年なのに

どうしたら
いいんだろう
こんなとき……

案の定……
今日は登校
してないし……

よし！

こんなときこそ
家庭訪問……！

これは
試験なんだ
点子……！
ちゃんと話せば
わかってくれるよ
安東だって……

点子センセイ
……

あ……

安東くん……！

昨夜のこと……
まだ誰にも
話してないよ
先生に……
ウソだけは
つかないで！！



ごめんなさい
私……

教師失格だ……
そんなこと何も
知らないで……

安東が……
非行に走ったのかと
思っちゃって……

非行って……

泣かないでよ
先生……

でも
ダメよ……!

あんなバイト
続けてちゃ……

先生が……
何でも相談に
乗るから……

そんな
カタブツの
先生が

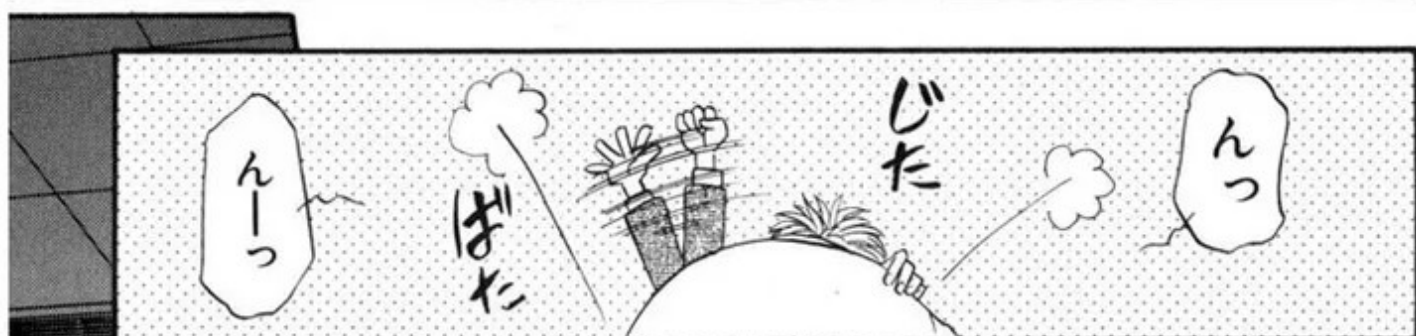
どーして
「あんな」店に
やって来た訳?

ド
キッ

え……!?

点子先生……

俺だって……
シヨックだったよ
あんなところ
先生に見られて



いけないよ…
先生と…
生徒…なのに

はあ

はあ

はあ…

だっ…
だめ…え

はあ…

ウソだね

点子先生…
感じてるじゃん

や…あ…

ビクン

はあ

あっ…

はあ

だめっ…
だめ…え

先生…
ウソつくなよ

ズリッ



たまんねえ
…もう
挿入るよ…

こんなに
ベトベトに
濡らして……
「聖職者」の
一文字が
まちがってんだろ？

や…あつ
激しく…
したらっ…

はぁ
はぁあ
はぁあ
はぁあ



だめっ…
まだっ…



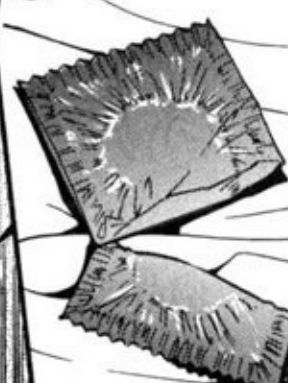
あつ…くっ

こんな時でも
「教育」は
するんだね

ふーん

ちゃんと…
ゴム…
つけなさい…

ゴム

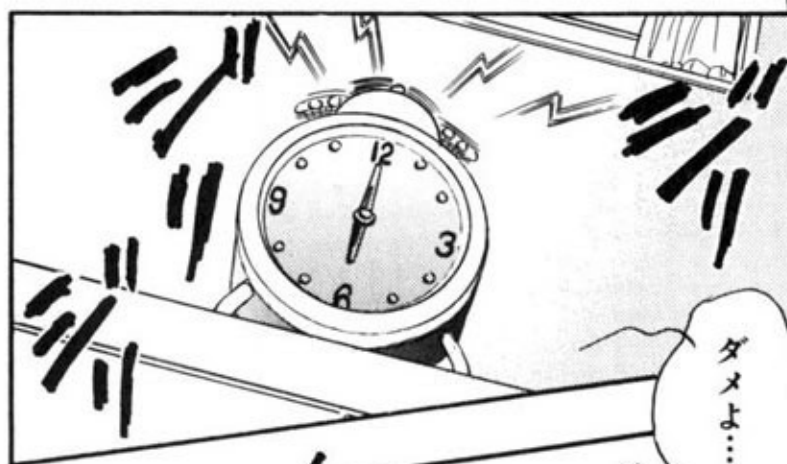






点子先生の憂鬱。



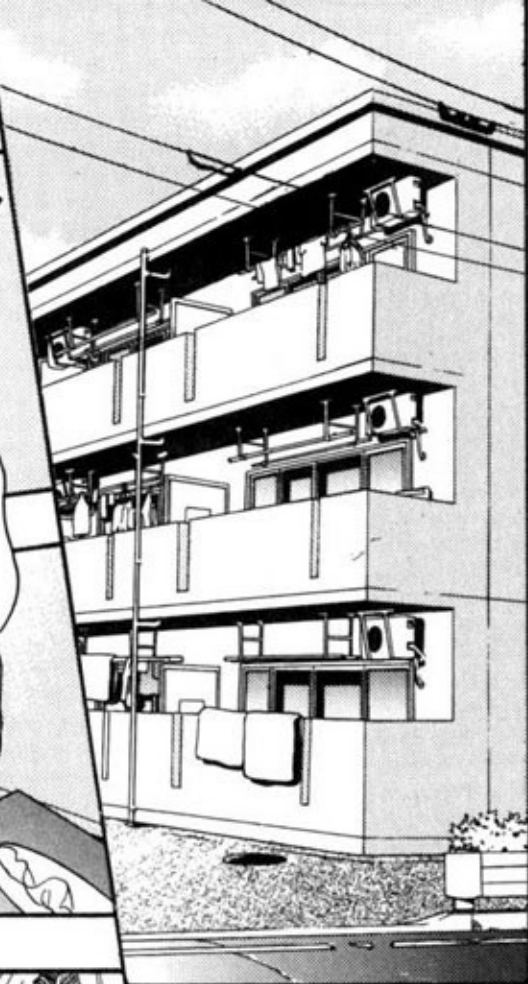


ダメよ…

もう…



学校…
遅れちゃう



そんなの…
ダメ…

それに…
土曜の夜から…
ずっと…

ベリッ
キッ

きゅっ

いーじゃん

学校なんて
休んじゃえば

だって……
先生と
してると……

何回イッても
全然
萎えないんだ……



だって……
先生と
してると……

何回イッても
全然
萎えないんだ……



はっ...

や...あ...

はっ

はあ

そんなにな...
激しく...しちや
ダメ...エ...

はっ...

や...あ...

はっ

はあ

そんなにな...
激しく...しちや
ダメ...エ...

はっ

や...あ...

はっ

そんなに...
激しく...しちや
ダメ...エ...

最高だよっ
点子先生の
なか...せまくて...

先生ッ...

はぁ

はぁ

や...ん
あつ...ああ

アッ

アッ

[illegible]

先生ッ…

最高だよっ
点子先生の
なか…せまくて…

はあッ

はあッ

はあッ

や…ん
あッ…ああ

はあッ

はあッ

はあッ

先生ッ…

最高だよっ
点子先生の
なか…せまくて…

はあッ

はあッ

はあッ

や…ん
あッ…ああ

はあッ

はあッ

はあッ

先生ッ…

最高だよっ
点子先生の
なか…せまくて…

はぁっ

はぁ

や…ん
あっ…ああ

はぁっ

アッ
アッ
アッ

あんたなんか
……嫌いッ

ギ
ッ

ギ
ッ

大ッ嫌い……

それでも
いいよ……
俺は……先生が

はっ

大好きだよっ

はっ
あっ

はっ

や……あ……

ダメ……エ
こんなの……イヤ……

ッ
ッ
ッ



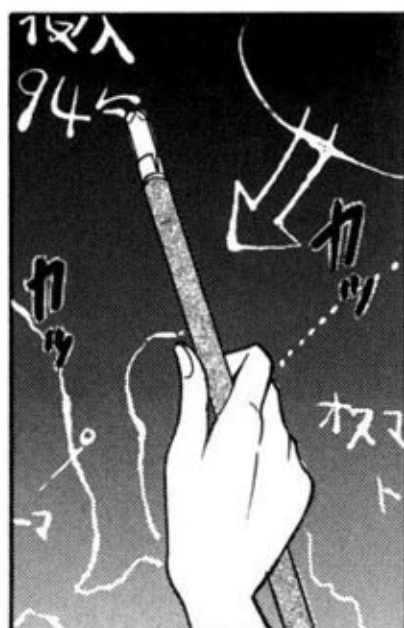
あーっ

へんに……
なっちやう……

時加

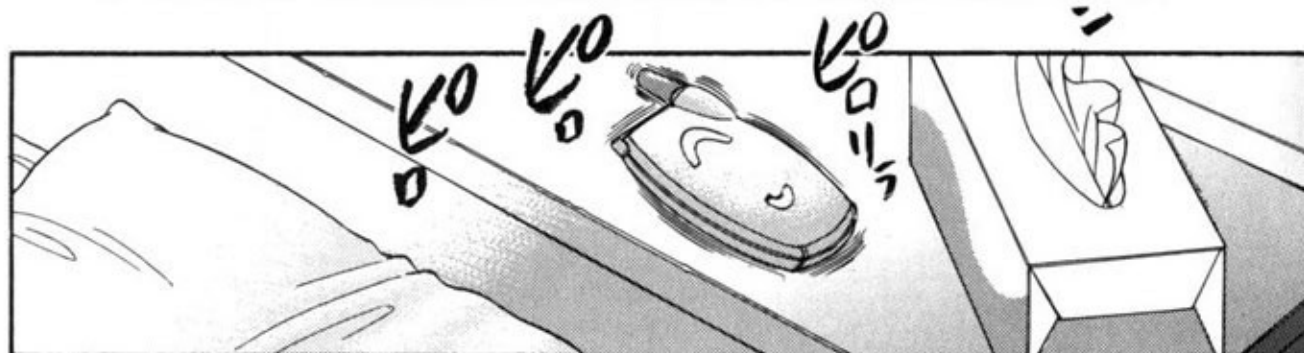
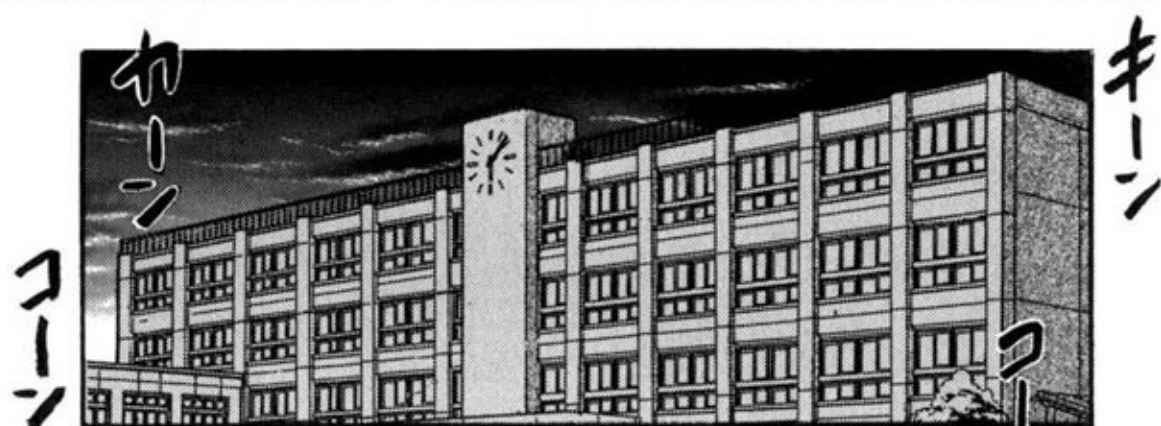


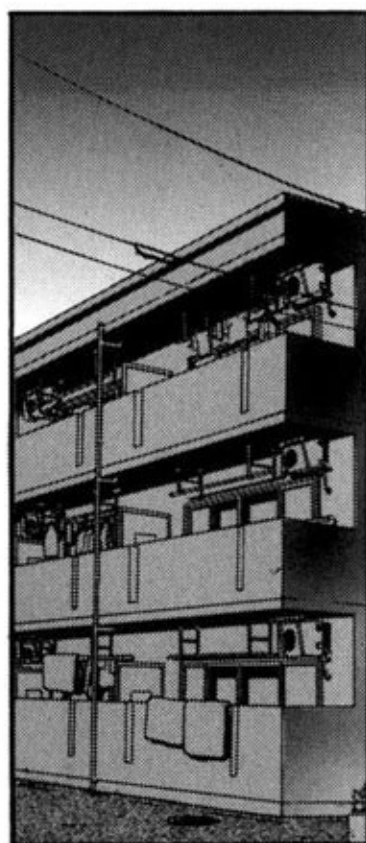












メガネが
好きだとか
そんなの…

照れくさくて
言い訳してた
だけだよ！
謝るよ…！！

俺は…
点子先生が

斉藤点子さんが
好きで好きで
大好きで——
ずっと…見てたんだ！

あたしも
覚悟…
決めたよ

誰がなんと
言おうと…
安東を
信じる…

ううん

そんな
ことない…

言葉…
だけじゃ
信じて
もらえない？

え？

「キッ」





安東の……
いつもより……
熱いっ……

んああっ

はっ

先生だって

いつもより……
何倍もシート
濡らしてるッ

安東ッ……

ねえっ……
ヘンなの……
何か……

あっ……

これ……
なに…!?

なんかー
…あっあ

ドッ

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ



点子先生の災難。





教頭先生…

どうですか？
もうお仕事は
慣れましたか？

ええまあ

生徒たちに
ナメられないように
必死ですけど……

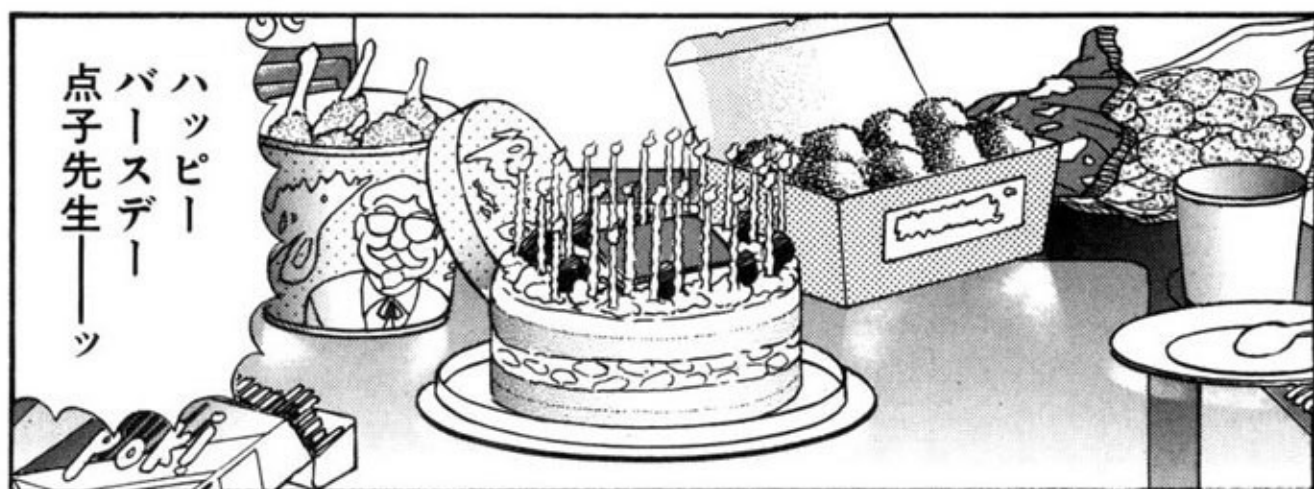
たはは……

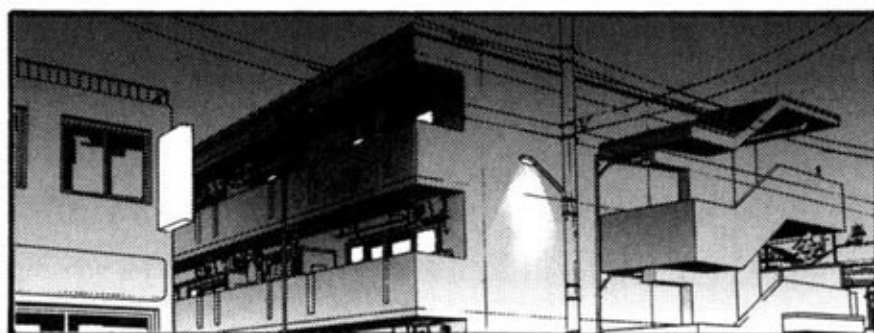
そういえば……
斎藤先生
もうすぐ誕生日
でしたね……？

え？ はあ……
憶えていて
いただいて……

就職一周年も
かねましてね……
いかがですか？
食事でも……

申し訳……
ありません……
先約が
入ってまして
お気持ちだけ
ありがたく
いただいて
おきます







恥ずかしいこと
いわないで…

バカ…

先生って

小っちゃいの
に
すげースタイル
いいんだよな

へへ…

ちよつと
待っててー



な……
ナニ
すんのよ…



にゃん



にゃん





は...あつ

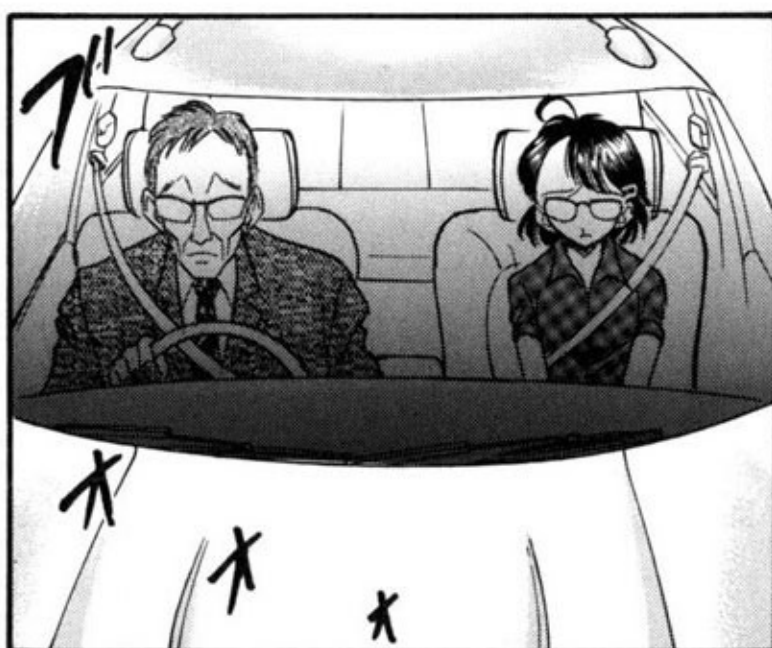
あつ

あつ

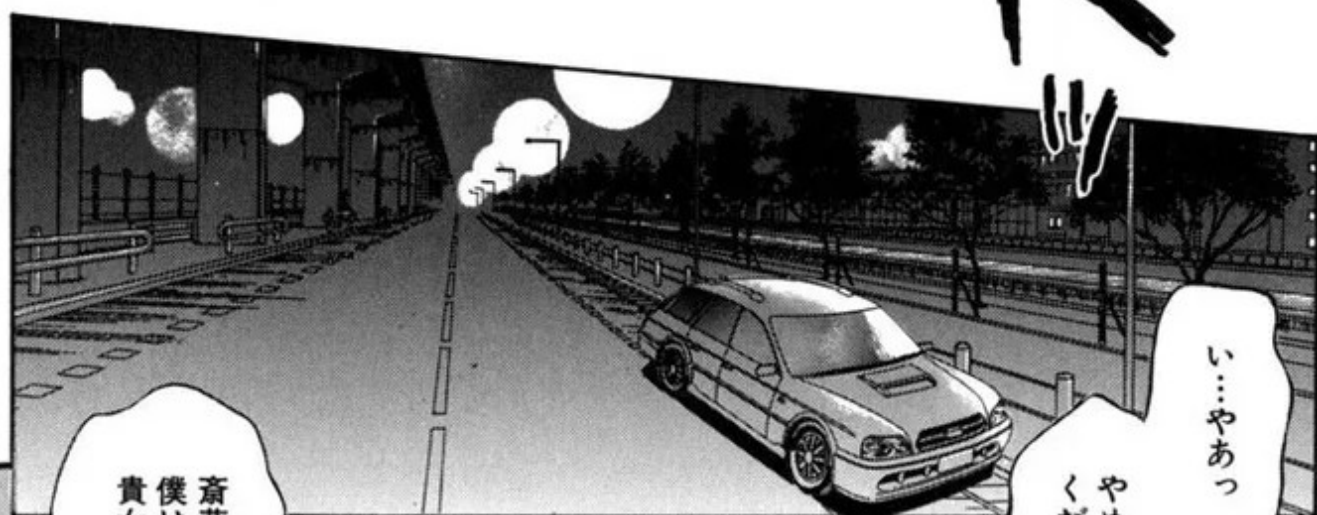
やつ...

ダ...メエ...









斎藤先生っ
僕はずっと
貴女のことを...

い...やあつ
やめてっ...
くださいっ...



大丈夫ですよ
生徒との淫行は
よくあることです

やっ…

僕の……
別れた妻も
そうでしたから

ああ……
斎藤先生……
君のような
かわいい人が

いやああ

やだあつ

安東——ツ





それでも
世の中は
理不尽なもので

あたしが
教師を辞めようと
思ったとき

強く止めたのは
安東だった

教頭が
免職になる代わりに
あたしも転動…

安東も
退学ってことで
納めてしまった

一年……
待っててよ!!

俺……

それまでに
強くなって
くるから…!



Winter Guaranaは続きます。

本編「WINTER GUARANA」は、構想すること8年前に溯ります。当初は一般青年誌への持ち込み企画。「閉じた街で閉塞する若者の歪んだ性」の舞台として絞り込んだのは「北海道旭川市」と「広島県福山市」の2都市。「半端な地方の大都市」「工業地帯で斜陽」「大都市圏へのアクセスが微妙なうえに、街単独では「文化」が貧しい」といった条件で。

長いことあたためていた企画だけに、またしても未完に終わってしまっただけで正直へこんでます。辛うじて単行本化まではこぎつけましたが、...内容的なものより、出版や流通サイドの都合で振り回されたりするのは、今の自分の星回りなのかなあ...とかグチこみたり。

最近、松本剛先生の「甘い水」(別冊ヤマガ連載)を読むにつけ、同じようなテーマや素材でも、扱う作家にかかると、全く違ったアプローチになるのを感じ、自分の拙さが目について布団かぶって泣き濡れこみたり。

とはいえ、めげずにはやり直れせん。いつか再び、このテーマで描くことができるよう希望しつつ、冷静に現実を見据えるべきかと考えたり。

思うに、自分が甘かったあの日...あの瞬間に痛いほど感じた「不全感」や「逆恨み」あるいは「無力であることの悔しさ」と相反する「歓喜」や「切なさ」「あたたかい感情と欲望」のアンビバレントこそが、取っつきにくいコトバでいうところの「青春」だったんじゃないかとか思ったりするワケです。



ボクにとっての「北海道・旭川」

札幌出身のボクにとって、旭川という街は、客観的に見て「サエない街」だったりする。函館、小樽、釧路といった港町には、その町特有の空気があり、なにより「命」が渡していく「その先の世界」がある。内陸の工業都市で、かつての軍都、...人口だけなら道内第2の街なのに、旭川にはうらぶれた、ドンブまりのイメージしか持てない。

マトモなライブハウスも、こじれたミニシアターもない。この町には「文化」の匂いがしない。「周知の街」だなんて前味噌は聞きたくない。...旭川出身の方、ごめんなさい。せっかくだから、ほめるとはほめておこう。「旭川ラーメン」は、「札幌ラーメン」より確実に旨い。しかも、-20℃の極寒の地で食する、ラードの膜で湯気をおさえたしょう油ラーメンは、わざわざそれだけのためにこの街を訪れる価値がある逸品であることに疑いはない。

そんな「サエない街」であることが、この物語では肝要だった。札幌程度に情報とのギャップが少なければ、それほどの閉塞感はおぼえないだろう。もし、これより小さな町だったら、単に思い切って脱出してしまえばいいってことになる。(内地と違って、土地の呪縛はそれほどないのが、北海道だったり。)

思えば、この中途半端な閉じ方は、「日本」と4-Hコの典型なのかもしれない。飛び出さずには不満もないが、かといってそこでナニかができるとも思えない。ナニかやろうと焦る奴らは、田舎を飛び出して東京もしくは大阪？札幌？へ、日本を飛び出して欧米へ...と考える。けど、その根底にある「不全感」は、結局そういった居場所へのコンプレックスにしかならないんじゃないか？...根が深い問題とは思わん？



ガラナ、この怪しいドリンク

皆さんは飲んだことありますか？ ちなみにボクは大好きです。

「コソア・ガラナ」(小原商店/函館)が最メジャーですが、個人的には「ガラナエル」(丸善市町/苫小牧)が好きです。昨年、北海道取材旅行の中、平取町で幻の逸品である「ブラジルガラナ」を発掘し、大感激いたしました。

これまでに確認したパワモンは「キリンMetsガラナ」(キリン北海道)の他、「リボンガラナ」(サッポロビール)「ガラナスカッシュ」(ウヰシマ)「ブラマガラナ」(雪印・1985=3)「カクマンガラナ」(不明・1983=3)などです。広島の「フリオ・ヴェンタース」という会社のブランドで「ガラナ」を購入したことがありますか？... 詳細未定。その他、サントリーとホッカが5~6年前、全国発売して瞬間風速で消えたりします。



「ガラナ」はもともと、1950年代に対「コカコーラ」戦略商品として当時の国内清涼飲料水メーカーが共同開発したものと聞いています。「コカ」がもった「コーラ」に対抗してブラジルの「ガラナ入り」をウリにしたよ〜ですが、結果は惨敗。わずかに北海道地域のみが、コカコーラ上陸が半年遅れたおかげでシェアを得ることができた...これが真相のよう。何だか「裏・プロジェクトX」なハナシです。

北海道って、戦後の「新生活運動」がビショに生き残っていたり(会費制の結婚式とか)、「内地」とは一線を画したフロンティアのなれの果て...な雰囲気がいイ感じですよ。

「YOSAKOI ソーラン祭り」とかも、あのヤンキーテイストが...ボクの美意識には耐え難いシロモノ/なんですか。あーやーわHのわかん「祭り」がオットロシク盛り上がり、もう見るのを見ると、無意識下に、くだらない「日本文化の伝統」を根底からブチ壊してくれよ〜な作風が「北海道気質」とも言えるんじゃないかと妄想したりもします。

そう考えると、南米アマゾンの強壮薬「ガラナ」の名を持つ炭酸飲料が、この地で普及しているのもアツギじゃないかも。

児童ポルノ禁止法「改定」案と 青少年有害社会環境対策 基本法案に **反対** します。

現在、国会において
「児童保護に名を借りた創作物の規制に
反対する請願署名」を集めています。
署名用紙はネットダウンロードできます。

また、マンガ家・アニメーター・ゲームクリエイターらに
よる社会的発言と情報を共有するグループ
「連絡網AMI」も活動中です。

詳細は
<http://picnic.to/~ami/>
連絡網AMIウェブサイト...まで。



初出一覧

まんがSHOW GAKKO2001年7月号・9月号～2002年1月号・3月号。
コミックまあるまん2002年7月号～9月号にて掲載されたもので、構成されております。

Winter Guarana

